

立山



第99号 2015年

- 部長のひと言1
- 第40回 定時総会&講演会2
- 桂垣講習会に参加して2
- 庭の日 苔玉講習会に参加して3
- 福井県全国大会に参加して3
- 福井県研修旅行に参加して4
- 技能検定予備講習会へ参加して4
- 樹木識別のポイント 講習会を受講して5
- 富山県造園業組合連合会青年部40周年に向けて...5
- 造園感謝祭に向けて.....6
- 伊勢奉納準備神輿担ぎに参加して6
- 技術奉仕活動REPORT 2015.....7
- 編集後記8

発行所 富山県造園業組合連合会青年部
編集・広報部 事務局
〒932-0808 小矢部市石名田218
砂土居 嘉泰
tel.0766-67-2101 fax.0766-67-5788

部長のひと言

富山県造園業組合連合会
青年部 部長

尾川 憲司

最近のじやういふ

雪吊りのシーズン真っ只中、十二月下旬に1本の電話が鳴った。お客さんから雪吊りの依頼の電話だと思いい、ドキドキしながら受話器を上げると近所のお寺からだ。今までお庭の管理は他の造園業者が行っていたが、事情により二年ほど前から管理していない。そう、樹高10m前後の赤松と黒松がこんもり茂っている様子。住職からの要望は、今年の雪で枝が折れそうなので早急に剪定してほしいということだった。

見積書を提出し、承諾を頂き、さて、いつ頃作業に行こうかなと思っていたら、日曜日に住職から連絡があり、「今、大工さんがお寺の参道の雪囲いに来られたんたけどやってみてもらってもいいけ。」と。思わず、「ちょっと待ってください。参道の雪囲いしたら高所作業車も入れなくなるしダメです。今から直ぐに見に行きますので待っていて下さい。」と言いい、慌てて見に行くと日曜日にもかかわらず、七十才位の大工さんが息子さんと一緒に縁の下から材料を出し始めていた。大工さんに事情を説明し、日、月、火曜日の3日間だけ待っていたら事になったのだが、月曜日から取り掛かっていたら到底終わらないだろうと思いい今日天気も良いい、「今から行こう」と、日曜日の十時ごろから支度をし、いざ出発。

大工さんに「あんちゃん、日曜日ながに仕事すんがけ。えらいの。」と褒められながら剪定開始。大工さんは材料出しが終われば帰るのだと思っていたら、屋根に登りはじめ瓦の修理を始めた。「大工さん、瓦も直せるんですね。」と、失礼な事を聞くと大工さんは、「昔の大工は何でも出来たもんだ。瓦葺きの構造も知らんような大工は大工とは言えんちゃ。」と。『この人は只者じゃないぞ』と思いいながら、仕事をしていた。お互いに最初は警戒して二服のお茶も時間差で頂き、互いの仕事をチラチラ見ながらどうやってるのだろうと興味深々。仕事の合間をみて少しずつ会話が弾み、いつの間にか自分は剪定の仕方を教え、大工さんからは瓦の構造と修理を教わっていた。日曜日

だというのに、夕方薄暗くなるまで手を止めない。自分は大工さんが帰るまでは先に仕事を止めないと決めていたのに。あまりにも暗くなってきたので、屋根の上で仕事をしている大工さんが気になり、「もう暗いから仕事終らんまいけ。」と声をかけてみた。そして大工さんは、「おう、やつと言ってくれたか。いま、降りてくぞ。」と、道具を片付け、梯子を降りてきた。お互い仕事が終わるまで我慢比べしていたようである。お寺の奥さんへ後から聞いたのだが、大工さんは、いつも遅くまで仕事をしないようである。こんな感じで2日目、3日目と経過し、自分は無事に剪定を終え、住職と大工さんに挨拶をして先に帰らせていただいた。翌日、お寺の参道の雪囲いが妙に気になり見に行ってみた。夫婦で作業をされていて、合掌型に木材を建て込み、大工さんが考案した筋交と結束方法により頑丈な仕組みになっていた。ノミの使い方や釘の打ち方も見応えがあり、本当に勉強になり来て良かったなあと感じた日であった。

二年間を振り返って・ そしてこれから

私が部長を引き継がせていただいてから早くも二年間が経とうとしています。

平成二十七年に行った事業の中で、桂垣の作成講習会がありました。十数年前、諸先輩方が県民福祉公園太閤山ランド内に寄贈された桂垣が老朽化していたこともあり、その当時から青年部で活躍されていた、西田さん野開さん、城さんに講師としてお越し頂き、丁寧に教えていただきました。日頃の仕事では、作成する事の少ない桂垣でしたが、青年部の先輩方の指導により何とか太閤山ランドに寄贈する事ができ、内心ほっとしております。造園技術・技能の継承という意味でも貴重な経験となりました。

また、秋には、富山県中央植物園において、『樹木の識別ポイント講習会』を行い、樹木の葉や枝の特徴

を詳しく教えていただきました。我々、造園業が取り扱う材料の中には樹木や草花などの植物材料を多用するという特徴があると思います。植栽された後の育成管理においても、樹木の特性を知ることは必要な事と思います。

この他にも様々な活動を通していろいろな方と接する事ができたことは、私自身大きな財産となりました。さて、当青年部は、設立四十周年という節目の時期にきています。本年度より実行委員会を設立し、各々の委員会で準備を進めている所です。来年には記念事業を実施する予定でありますので、部員一人一人が得意分野で持てる力を発揮し、協力しあつて取り組んで行きたいと思っております。

また、来年、二月には伊勢神宮奉納行事(第四十回造園感謝祭)が行われ、北陸ブロックとして献奉納する事になっております。部員一同、団結して参加させていただきたいと思っておりますので、今後ともご協力の程、宜しくお願いいたします。

二年間、役員の方々、部員の皆さんの協力により、無事に青年部活動を行えた事に對し、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、宗景支部長をはじめ、諸先輩方の皆様、これからも変わらぬご指導とご鞭撻、そして青年部の行く末を温かい目で見守っていただけますようお願いいたします。



第40回 定時総会 & 講演会

小矢部支部 砂土居 嘉泰

2015年1月24日の土曜日に

高岡の地にて第40回定時総会と講

演会が開催されました。定時総会

では2014年でご卒業された4

名の方へ感謝状と記念品の贈呈を

行いました。また講演会では、伊勢

神宮奉納行事の造園感謝祭につい

て日本造園組合連合会富山県支

部の古崎様にご講演頂きました。

来年の2016年は北陸プロッ

クが当番県ということで献木奉納

の内容をわかりやすく解説いた

きとても勉強になりました。

懇親会では、優れた技能者表彰

も行われ、久しぶりに同業者の皆

さんと交流を交わすことができました。

有意義な懇親会となりました。



歴代部長!

桂垣講習会に参加して

射水支部

寺崎 吉則



皆さん、お疲れ様です。射水支部

の寺崎です。4月18日、19日に野開

吉彦氏を講師としてお招きし、場

所は光地園さんの作業場をお借り

して、桂垣講習会を行いました。

野開吉彦氏の丁寧なご指導、

ちよつとした笑いがある楽しくて、

そして自分自身の為になるとても

良い講習会だったと思います。

参加された方もそう思われたの

ではないでしょうか。残念ながら私は

18日しか参加できませんでしたが、

今後の仕事でも活かせる内容がた

くさんあり、いい勉強になりました。

5月30日、31日に太閤山ランドに

て桂垣設置の講習会でも沢山の方

が集まり、綺麗に納まりました。

時間のある方は是非とも青年部

の講習会へ参加していただき、皆で

技術を磨きたいと思いました。

2日間講師としてお越しいただ

いた野開さんありがとうございました。

また、2日間講習会に参加さ

れた方々、大変お疲れ様でした。



庭の日

苔玉講習会に参加して

高岡支部 宮下 大輔

毎年行われている「庭の日」のPR活動。今回は苔玉の作り方をお客様に説明しながらの活動ということで苔玉を作ったことのある僕自身、懐かしい思いをしながらの活動でした。

苔玉の作り方に決まりはあれど、それぞれの想いを形にしていくなかで、どの植物をどのくらい、どのような配置で、と悩みながらも楽しそうに土を丸めていく受講者の方々の表情や様々な苔玉が印象的な活動となりました。

今回の講習が苔玉となり、いつもとはまた違った層の方と触れ合うことができたのではないかと思います。これからの活動も今までの様に沢山のひと笑顔と交えながら庭の日をPRしていければお客様にとっても私たちにとても素晴らしい場になるのだと再確認した2日間となりました。

次回も多くの人が参加していただき、楽しい活動となればと思います。



福井県全国大会に参加して

高岡支部 山本 大介

6月5日(金)、福井県の芦原温泉、グランディア芳泉にて第35回造園連青年部総会・全国大会に参加しました。総会では香川県の広瀬部長の挨拶に始まり、新役員の発表、新部長の宮城県支部 高野部長の挨拶、役員紹介を行いました。約1年ぶりに全国の同志が同一会場に集まり、意見交換や近況報告など、それぞれの繋がりの人と懇親を深める良い機会となりました。交流会では福井ならではの設えがあり、久しぶりの蟹料理を堪能しました。施設も立派なところで温泉も広くて、露天風呂もあり心と体が安らぎました。すごくたくさんの方が集まったため、全員の方とお話は出来ませんでした。が、全国幹事としてたくさんの方と交流して精進していきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



Fukui



福井県 研修旅行に 参加して

富山中部支部 大村 茂生

第35回造園連青年部総会・全

国大会の翌日の6月6日(土)、

富山県のメンバーで福井県内の

研修旅行に行ってきました。昨

日の全国大会の会場からのため、

朝はのんびりできました。

まずは福井県立恐竜博物館へ

行きました。館内は本物の恐竜

そっくりで実際に機械でしたが、

なめらかな動きは恐竜そのもの

でした。大きさも大きな恐竜か

ら手に乗るくらいの恐竜まで大

小さまざまでした。昔の地球を

再現していて、植物も恐竜時代

の植物が展示してありいろいろ

と勉強になりました。その他に

白山平泉寺旧境内、朝倉氏遺跡、

名勝養浩館庭園を観光しました。

今回は福井県と富山県からは

近かったですが、年に一度のこ

の全国大会と研修旅行はご当地

の観光名所やご当地グルメを楽

しめる良い機会です。来年以降

も参加していきたいと思います。

技能検定予備講習会へ参加して

氷見支部 朴木 勇人

8月9日(日)、日差しが

とても強いお盆前の日曜に

毎年恒例の技能検定の予備

講習会へ参加しました。今

回は例年と講習会の方法を

変更しました。受講者の皆

さんへよりたくさんの葉っ

ばを見てもらおうと、たく

さんの葉を集めました。全

部で80種類くらいの葉っぱ

を準備しました。準備して

いると土台のビール瓶の数

が足りなくなり急遽、ベッ

トボトルを用意しての準備

となりました。80本くらい

の葉が並ぶと普段樹形を見

ているため、なにか異様な

感じを受けました。

要素試験と同様に30秒毎

に合図をして受講者の皆さ

んへ勉強してもらいました。

いろいろと考える人、諦め

ていそうな人、メモを取る

人、皆さん勉強の仕方もそ

れぞれでした。受講者の皆

さんに少しでも合格してほ

しいと思う次第です。合格



樹木識別のポイント 講習会を受講して

高岡支部 広嶋 孝之

残暑も終わり、肌寒くなった10月11日（日）樹木の講習会が、富山県中央植物園にて行われました。

講師には、同園の山下寿之さんを迎え、私共が今さら聞けないことや

マニアックな話など津々浦々教えてくださいました。内容としては、前半にプロジェクトを用い、葉っぱの名前当てクイズを行いました。いつも見てはいる葉っぱだが、一枚一枚出されると、全然わかっていないんだなあーと、つくづく感じました。識別のポイントとして

は鋸歯、葉脈、葉柄、毛の有無等、詳しく丁寧に教えてくださいました。



後半は、園内を廻り、よく似た葉っぱを集め、違いについて説明を受けました。

専門的な先生と同行していると、とても楽しく、あっという間に時間が定刻と

なっていました。短時間ではありましたが、とても有意義な講習会となりました。山下さん、ありがとうございました。

この講習会を持ちまして、今年の技能推進部の活動を全て終えることができました。

また、今年出来なかった講習会につきましては、来年の申し送り事項としておきます。

尚、青年部OB、青年部各位には、多大なるご指導ご協力頂きまして、誠にありがとうございました。



富山県造園業組合連合会 青年部40周年に向けて

富山県造園業組合連合会 創立40周年記念事業実行委員会 委員長 光地 正広

私たち富山県造園業組合連合会青年部は、発足より40周年を迎えることとなりました。

当青年部は昭和51年、造園を志す先輩方150余名により設立されました。以来今日まで、部員相互の親睦・情報交換、造園技能・技術の研鑽、各県造園青年部との交流、地域社会への奉仕活動等々、多方面にわたり精力的に活動をして参りました。

さて40周年を迎えるにあたり創立40周年記念事業実行委員会が組織され、私は委員長の大役を拝命いたしました。

さて、40周年を迎えます事業として三つの事業を計画しております。

一つ、歴史を綴る記念誌の編纂です。30周年から40周年までの青年部の足跡や40周年記念事業の活動内容を記録してゆきます。

二つ、未来を創る記念事業の実施です。みどりとふれあう体験型のイベントで庭づくりの楽しさをひろめたい。

三つ、諸先輩方及び関係各位への感謝を表し、親睦を図る記念式典の開催です。

これらの事業を青年部一丸となって取り組んでゆきたいと思っておりますので、青年部員皆様のご協力を深くお願い申し上げます。

「つなぐ」

創立より40年、父がOBである事を考えると、青年部も世代が一新したのだと感じます。

世代が変われば品変わる。

変わるとも40年にわたる青年部、諸先輩方の想いを受け継ぎ、新しいことにも挑戦し、明日へ、未来へとつなげてゆきたいと考えています。



造園感謝祭に向けて

富山西部支部 今井浩司

平成二八年二月、造園連の恒例行事である造園感謝祭伊勢奉納献木が、北陸ブロックが当番となり、例年以上の多くの人員により奉仕奉納団が結成され執り行われようとしています。青年部員の皆さんには、先日来より担ぎ練習や事前打ち合わせ等で、いろいろと気苦労があつたことと思います。

今から十五年前の平成十二年に、富山県が当番県として、奉仕団が結成され、造園感謝祭が行われました。当時のメンバーもわずかですが、青年部に残っています。

私は今回の感謝祭で、十回目の参加となります。十年間通いました。お伊勢さんに。

伊勢では毎年同じ顔に出会います。ここだけの知人もできました。毎年来ているはずなのに今回は顔みないな・・・と、心配してしまう名前も知らない知人もできました。でもみんな造園人。奉納前夜の懇親会にいる五百名はすべて造園人。私はそんな全国の造園人に会うため、お伊勢さんに十年通いました。

青年部員の中には、伊勢まで行つて、奉納木を担いだり、奉仕作業を行うことを、煩わしく思う方もいると思いますが、不満は感謝祭が終わってからにしてください。ご心配なく。おそらくもう担ぐ機会はないと思います。今回参加して何も得るものがなければ、次回の感謝祭も参加する必要はありません。皆さんのスタンスで感謝祭を感じてもらえればいいと思います。

今回で十回参加の私ですが、次は十五回目指してできる限り参加していこうと思っています。日々の造園作業の感謝と、全国の造園人との出会いとの感謝を、これからお伊勢さんに毎年報告に行くつもりです。これが私のスタンスでの感謝祭。皆さんにも何かを感じて欲しい感謝祭です。

伊勢奉納準備

神輿担ぎに参加して

氷見支部 禅野 泰成

10月17日(土)に石川県の造園大学校にて、伊勢奉納の神輿担ぎの練習があつたので参加しました。毎年、2月に伊勢神宮で奉納行事があるのですが、来年は北陸ブロックが当番として神輿を担ぐこととなります。石川県・福井県・新潟県の3県と富山県を合わせた4県合同での伊勢奉納行事となります。今回は石川県に集合し、実際の神輿を確認するのと、神輿を担ぐ順番やグループ決めを行いました。今回集合したメンバーは当日参加する人全員ではなかったし、皆体格や背の高さが違う為、神輿を安定させて担ぐことが難しく苦戦しました。特に人員の配置は大きい順にしたほうが良いのか、ランダムにしたほうが良いのか、いろいろと試行錯誤しました。ただ、みんなで声を出して、掛け声を出すことで徐々に安定してきました。

当日まで時間はあまりありませんが、練習したことを記憶にとどめ、伊勢神宮の当日は北陸ブロック全体が一致団結して伊勢奉納行事に望みたいと思いました。どうぞよろしくお願いいたします。



技能奉仕活動 ▶▶▶ Report 2015

富山西部支部 金岡 伸夫



秋晴れの9月27日(日)、富山市ファミリーパーク内にて富山西部支部の技能奉仕活動を行いました。参加者は6名。ファミリーパーク内に生息するホタル増加を目的として、2006年に組合行事として施工した「ホタルのお宿」。青年部を中心に、完成後もさまざまな小補修を加えてきました。

「第二のお宿」の要望が、地域住民の方々からあがり、技能奉仕活動にて施工する運びとなりました。今回の作業は、旧用水跡を利用して掘削された第二のお宿の完成です。新規流れの床に砂利や割栗石を敷設し、既存用水とお宿を接続、また周辺に中木を植栽する作業です。

事前にファミリーパーク職員の方より、既存用水が9月の中旬から下旬にかけて流れが止まるので、作業はこの日程でお願いをされておりました。

たが…なんと！勢いよく水が流れていました。ダンブ1台分の割栗石を人力で現場まで運ぶ健気な青年部員。漏電を気にしながら、巨大なピックにて既存用水壁に穴をあける屈強な青年部員。一方、小さなピックで地道に既存用水壁に穴をあける粘り強い青年部員。

水を別の流れへ変更したために、動物園内を浸水させてしまったり…：光る園には、適度なピックが無かったり…：どうしても水が止まらなかったり…：

皆さん、本当にお疲れ様でした。来年の初夏、「第二のお宿」にホタルが瞬くことを祈りつつ。



富山中部支部 平垣 太宏

造園青年部富山中部支部は毎年技能奉仕活動をルンビニ園で行わせていただいています。今年も10月24日にルンビニ園にて松の剪定を行いました。現在富山中部は15名で、剪定業務の忙しい中8名来て頂いての奉仕活動となりました。

それぞれが1本の松を、大きい松には2名で剪定を行いました。休憩時にそれぞれが使っている道具の良し悪しや、今



後の技能奉仕の内容について話し合いました。

自分が支部長になって2年経ち、皆さんに支えられて頑張っていると思っていきます。

射水支部 森田 知彦



9月19日、射水支部の技能奉仕活動を行いました。今年の活動内容は臨港道路西線の中央分離帯部分のカイツカイブキの刈り込みでした。今回は例年とは異なり、一般社団法人富山県緑化造園土木協会射水支部の方々と合同での活動となりました。というのも、10月24日、25日に海王丸パークにて開催された「全国豊かな海づくり大会」、それにあわせて会場周辺の整備のボランティア協力をお願いがあったからです。

作業当日は、シルバーウィークの連休初日だったこともあり、当



支部は都合が悪かったメンバーが多く、10名中4名と参加者少なかったのですが、全体では、約20名が参加しました。天候も悪く、時々激しい雨が降る中、ヘッジトリマーで懸命に作業を行い、何とか予定通りの本数を剪定することができました。参加された皆さんお疲れ様でした。

新川支部 柳瀬 芳智



10月24日に新川支部で技能奉仕活動を行いました。

今年も立山町立雄山中学校で剪定作業を行いました。天気にも恵まれ部員全員参加で気持ちよく作業することが出来ました。

高岡・砺波・氷見支部 大橋 一文



11月1日の日曜日に毎年恒例の氷見・高岡・砺波支部の技能奉仕活動が砺波市チューリップ公園内で行われました。

寒い中、3支部で14名が参加し、カシ1本、松5本、ハナミズキ1本等の剪定を行いました。汗をかきながら、松の剪定をしていると通りすがりの人に「すっきりしたね。」と言われ、清々しい気持ち



になり、日頃培った技と経験を技能奉仕活動という形で発揮できたことに喜びを感じ、自分の自信につながりました。地域の為に奉仕活動を行うということは慈愛の心で奉仕する事に尽きます。

今後も地域活動に積極的に参加し、日頃の技術を生かし、地域に貢献していきたいと思っています。



南砺支部 湯浅 孝一



私たち、南砺青年部は5月に南砺市園芸植物園フローラルパークで作庭した庭の剪定を技能奉仕活動として行いました。

参加者は3名と少ないながらも、自分たちの地元で青年部として庭を設置することは大変意味のあることだと思っております。これも青年部OBの酒谷さん、親組合のおかげです。あいにく天候は恵まれませんでした。が、途中植物園の来館者など



にも庭を見ていただき、よい一日でした。

この技能奉仕は今年だけになるかもしれませんが、造園組合、青年部の存在をみんなに知っていただけの活動をしていきたいです。



小矢部支部 吉田 習一



10月23日、深明園にて小矢部支部の技能奉仕活動をおこないました。

参加者は6名。活動はハナミズキ、梅の剪定とサツキ・ドウダン・アベリアの刈込、桜の枝打ちを行いました。深明園が山にある場所なので地形が単純ではなく割と急な斜面に数年は手が入ってないと思われる延び放題のサツキ。加えて雪などによる変形。三脚も立てる事ができず苦労する事もしばしばありました。

活動中に園の職員の方から相談が入ったようで、予定に無かった高木の剪定も。敷地入口から建物に通じる道の両サイドに桜が並木のように植わっていて、バス等の大型車が通ると枝が当たって業者の方に申し訳ないとの事。たつて人手が分けられ対応するといった場面もありました。作業終了近くに

は職員の方が少し離れたところからコッソリ眺められていて満足そうな表情をしていました。途中そのような事もありましたが作業は捗り余りそうな時間でドウダン・ヒラドの刈込。梅・ハナミズキの手入れをして1日の活動を終了しました。

感想など聞くこともできませんが、途中不意に見られる職員の方の手入れの仕上りの満足そうな表情にはこれからの励みとします。

また奉仕活動を通して青年部の活動や造園の技術が少しずつでも伝わっている活動になれたかなと思っています。



編集後記

2015年の季刊誌「立山」はいかがでしたでしょうか。今年はフェイスブックを大いに活用し、よりタイムリーな記事を皆様へお送りすることを心がけて活動しました。事業を行なっている最中に情報をアップすると、短時間で他県の同志の仲間より「いいね!」が押されたりして、情報を幅広くタイムリーに広報できたのではないかと考えます。また他県の活動もタイムリーに知ることができ、お互い切磋琢磨し、造園業界を盛り上げる形で事業を行なうことが出来たのではないかと思います。

2016年は富山県造園業組合連合会青年部にとって、40周年の節目の年です。この節目の年に記念すべき1000号を迎える季刊誌「立山」を特集号として発行し、以後は

HPやフェイスブックなどの各種SNSを活用して情報発信していく所存です。時代に即した形で広報することで、よりたくさん若い人たちにも情報を発信し、造園の魅力をお伝えしていければと思います。

最後に2年間この広報活動を行うにあたり、記事をお願いした時に快く了承いただいた青年部員の皆様、本当にありがとうございました。いろいろとご迷惑をおかけしましたが、無事にこの役職を終えることができました。私自身ほっとしています。青年部は今後も、造園の魅力を発信する活動を行っていきますので、引き続き期待していただければと思います。2年間ありがとうございました。

(広報部一同)